

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

地域交流バザー特集号

去年の焼きそばは
 麺と野菜を交ぜてから
 ソースをかけていた
 今年の焼きそばは
 麺だけにソースをかけてみた
 塩コショウは
 野菜のために
 塩コショウは
 野菜のために
 ソースは
 麺のために
 ソースは
 麺のために
 塩コショウは
 野菜のために
 ソースは
 麺のために
 と念じて
 麺と野菜を交ぜる
 紅しょうがは甘さに寄り添い
 青海苔は風上に立つ



ちょっとした気持ちをふりかけて



地域交流



【2007年 夏号】

巻頭文	P 2	支援センター	P 3
特集：地域交流バザー	P 4・P 5	自閉症について	P 6
新人紹介	P 7	後援会のページ	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 柳場秀雄 〒228 0806 相模原市栄町 6 14
 毎月15日発行 購読料1部 50円

利益追求の嵐のなかでも風でありたい



昨年10月より本格施行された障害者自立支援法について、昨年の7月15日発行の『風の谷VIEW』に「受け入れ難い制度である」との思いを書かせていただきました。その思いは現在も基本的に変わってはいませんが、法が通った以上は現実的かつ積極的な対応も進めていかなければなりません。そこで、当法人では自立支援法の本格施行に合わせ、昨年の10月1日付で、新法に基づく10種の事業指定を受けました。これは利用者の多様なニーズに積極的に対応していきたいとの思いから準備を進めたものです。（各種事業の実施状況については、本誌の『相模原自閉症支援センター便り』のコーナーを参照していただきたいと存じます。）

また、当法人のいわゆる中核事業である『やまびこ工房』も、本年4月より、旧体系の『知的障害者通所更生施設』から新体系の『生活介護』へと事業移行を行いました。これは利用者の障害程度区分が当初想定していた以上に高く出たこともあり、移行した方が経営的に有利であると理事会で判断したことによるものです。

4月に移行してからまだ日が浅いこともあり、経営面での評価はまだできる段階ではありませんが、旧体系のまま月額報酬制にされた前年度に比べると収入増になるのは間違いありません。ただし、生活介護事業は利用者の平均障害程度区分により職員の増配置が求められる仕組みなので、実質的にプラスになるか否かは微妙なところです。

そして、肝心の職員採用については、景気回復に伴う雇用情勢の変化もあり、福祉系の事業所はどこも職員採用に苦慮しているとの現状が、マスコミや関係者から報告されていますが、当法人も同様の状況にあります。正規雇用を前提としない障害者自立支援法の制度のひずみが、ここにも現れているように思います。

このところ、コムスンの企業ぐるみの不正行為が大きく報道され、厚労省等行政機関も対応に追われているようですが、そもそも、社会福祉法人の独占状況を打破し、社会福祉事業への多様なサービス提供主体の参入を促し、事業者間の競争によりサービスの質の向上を図るとして措置から契約へと制度移行した一連の流れの中で、起こるべくして起きた当然の帰結のように思われます。利用者の幸福の追求を優先するのではなく、企業利益の追求が優先されるのですから、何をかいわんやです。

ところで、わが社会福祉法人風の谷の所在する相模原市は、昨年3月に津久井町と相模湖町、本年3月には藤野町と城山町の計四町との合併を果たし、人口70万人を超える新生相模原市として新たにスタートしました。平成15年に市の面積が狭いため面積要件を緩和されて中核市になった相模原市は、今や合併により自然豊かな森と湖のある、神奈川県では横浜、川崎に次ぐ広さと人口のある大きな都市になりました。数年後には政令市への昇格を目指して準備も進めているようです。政令市になれば、市独自の障害福祉施策もより容易に実施できる環境が整うと思いますので、今後とも相模原市当局と緊密な連携を図りつつ、積極的な事業展開を図っていききたいと思います。今後ともよろしくご支援ご協力のほどお願いいたします。（施設長・中島）

相模原自閉症支援センター便り

今回は相模原自閉症支援センターの事業内容についてご紹介したいと思います。今までの広報誌では主にガイドヘルプ活動についてご紹介いたしましたが、実は他にも色々なサービスを行っています。神奈川県指令として居宅介護、重度訪問介護、行動援護、短期入所、重度障害者等包括支援、相談支援の指定を受けていて、相模原指令として日中短期入所事業、移動介護の指定を受けています。

その中で現在活動しているのは、居宅介護、短期入所、相談支援、行動援護、移動介護になります。メインとなる活動といえば“ガイヘル”になるわけですが、この“ガイヘル”も様々なサービスの総称で、主に介護給付の「行動援護」と地域生活支援事業の「移動支援」に分けられます。「移動支援」は地域生活支援事業なので、それぞれの地域での特色（格差ともいえますけれど）がでてきています。相模原市は「移動介護」と言う名前で、余暇40時間が上限、そのほかに通院介護で支給を決定するというのが基本の様子です。行動援護については以前もご紹介いたしましたが、利用計画に基づく活動を、必要があれば身体介護的な支援も入れながら活動していきます。当事者のニーズにより合わせたサービスを提供出来るといった面と同時に、5時間以上の活動は一律の報酬単価となる等の制限もあります。しかし何と言っても、最大の特徴は利用が“行動援護の対象者”のみであることです。この“行動援護の対象者”というのが曲者で、特に自閉症児者にとってはなかなか理解が得られず認定されない、という面もあるようです。現場の職員や福祉事務所のケースワーカーでさえわかっていないことが多いので、利用する方はもっとわからない制度だと言う問題点はまだ改善されていない様子です。

短期入所は4～6月の3ヶ月を試行期間としてスタートしました。やまびこ工房内QOL室で一日最大2名を受け入れていています。現在はやまびこ工房利用者を対象に受け入れを開始した状況ですが、短期入所への期待が想像以上に強く大きいこともあり、すでに全ての希望にお応えできないのが現状です。建物の構造上の限界や6名の職員が交替で勤務している事もあり、まだまだ要望を満たすことの出来る日は遠いようです。外出支援同様に利用された方に少しでも良い経験をしてもらうことを目標として続けていきたいと思っています。

その他の居宅介護、相談支援も含め一つ一つのサービスが独立して存在するのではなく、家庭との連携を図りながら、自閉症児者の地域生活を本人主体で充実したものにしていく為に相模原自閉症支援センターが存在できたと思います。そのため絶対的に必要なものがあります。それはヘルパーさんの存在です。ヘルパーさんがいないと何も始まりません。ぜひとも、この機会にヘルパーの仕事に興味のある方はご一報ください。（西村）

募集

ガイドヘルパー

内容：障害のある方の外出の付添い
主に余暇活動。
資格：ヘルパー2級以上
介護福祉士

自閉症者のグループホーム

ケアホーム・ナウシカ 夜間補助スタッフ（男性）
内容：自閉症の人たちが生活するグループホームに泊まる
仕事です。（主に清掃、洗濯等の家事。）
個室完備。夕朝食つき。

連絡先：042-760-1033 詳しくはやまびこ工房までお問い合わせください。

いい音楽とおいしい食事。
レストランやまびこで優雅な
ひと時を！
ドゥ・シルフィードの皆さん、
素敵なクラリネット演奏を
ありがとうございました！！



雑貨コーナーです。毎年ここは
掘り出し物がいっぱい！時間
がたつと値引きもあるよ！！

きつねいち！
たぬきいち！うどんで！！

この人、本職
かしら...？



名物の焼き鳥です！
今年は例年の倍の本数を
準備しましたが、あっ
という間に完売でした！！

やまびこ工房地域交流 バザーへようこそ！

やまびこ工房で行うバザーは、今年で早や9回目！となりました。この9年の歳月は年をとったり建物が古くなったりするだけでなく、この催しに関わる人たちの新しいつながりや新しい絆を生んだ9年です。同じようできて同じではない、今年も晴天のもと素敵な時間を過ごすことができました。



今年は休憩テントに駄菓子
コーナーが出現！
こども達に大人気でした。



今年も利用者さんの手作り品を中心に小物を販売しました。お母さん方の手作り品も目を見張るさすがの出来栄です。一番の売れ筋はコースター。刺繍できれいな模様が入ったもので色や模様もたくさん種類があります。
また、ビーズで作った動物のアクセサリーもすぐに売り切れてしまいました。本当にありがとうございました。
次回に向けてより良い製品を作っていきたいと思えます。



地域の方の野菜やお花の販売も毎年恒例です。地域の方のご協力あってのバザーです。

自閉症について ~待つこと~

自閉症の方々は一般的に、「待つ」ということが苦手だと言われています。それは、先の見通しが立たず不安になるということや、早く目的を遂げたいという欲求が強いという理由が考えられます。やまびこ工房では「待つ」ということを支援する場面が度々あります。支援の仕方は個人によって異なりますが、その例をご紹介します。

Aさんはとてもせっかちで、次の活動まで待つことがとても苦手です。また、時計で時間を知ることが難しいため、次の活動をいつから行うのがわからず、不安になることがあります。そのAさんは次の活動までの時間を、タイマーをセットすることにより待つことができるようになりました。キッチンタイマーにひもを通し、首から提げて鳴るのを待っています。例えば、11時40分に作業が終了し、12時からお昼ご飯の時間だとすると、20分後に鳴るようにセットしたキッチンタイマーを渡すと、そのタイマーがなるまでは、食堂に行かずに安心して待つことができます。

Bさんは作業を次から次にどんどんやり、やりすぎてイライラしてしまうことがあります。作業と作業の間に休憩を入れることが苦手で、作業を終えるとすぐ次の作業の要求をします。声をかけて休憩してもらおうとすると、余計にイライラしてしまいます。そこで、タイムタイマー(図1)とキッチンタイマーを利用して、作業を要求してきたら、5分待ってから次の作業を始めるようにしました。タイムタイマーは残り時間を色が減っていくことで表す道具で、視覚からの情報の方が取り入れやすい自閉症の方にはわかりやすいタイマーです。ただ、残り時間がなくなっても音が鳴るわけではないので、待ち時間終了をわかりやすくするために、キッチンタイマーも併用しました。1回目はすぐ作業をほしがり、イライラしたBさんでしたが、2回目以降はタイマーを見ながら5分間座って待ち、タイマーが鳴ると、すくっと立ち上がって作業を始めています。以前のように作業をしながらイライラすることなく過ごすことができます。

「待つ」ということが苦手な自閉症の方々ですが、全く待てないというわけではありません。Aさん、Bさんのようにご本人にあった方法で、あとどれくらい待つのがわかると、不安になることなく、おだやかに待つことができるのです。(粕谷)



(図1)

新人スタッフ挨拶

今年度やまびこ工房の非常勤職員として、またCHナウシカのスタッフとして5名の方が新たに加わりました！



初めまして。ケア・ホームナウシカで食事の担当をしている宮崎真理子です。「晩ごはん、何？」と、皆さん帰るとすぐにキッチンのをぞきにこられます。それがとても嬉しく、「もっとおいしい物をつくらう」と、励みになっています。また、私の母が自宅の横で無農薬野菜を作っているため季節の野菜もいっぱい食べてほしいと思っています。よろしくお願いします。



こんにちは。藤原和彦と申します。今年の2月末より「やまびこ工房」の非常勤職員として働いています。約20年間、半導体のエンジニアとして会社勤めをしていましたので、福祉の仕事は全くの素人です。利用者さんと共に自分も成長できれば、と思っています。



愛川町から通っております木藤ミチ子です。やまびこ工房にお世話になって1ヶ月半経ちましたが、まだまだわからないことばかりです。今できることは、笑顔で迎え、笑顔で送り出すことです。利用者の方が一日を楽しく過ごすことができればと思います。これからも利用者の方を思う気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。



相武台から通っています日比野康子です。4月に入ったばかりなので、皆さんに色々教えて頂きながらの毎日です。明るく、笑顔で接していきたいと思っています。よろしくお願いします。



5月よりスタッフとして仲間入りしました、相田章子です。3年間訪問介護に携わり、この春に介護福祉士になりました。様々な福祉の現場に携わりたいと思い、やまびこ工房で新たな一歩を踏み出しました。まだ1ヶ月足らずですが、利用者の皆様、スタッフの方々に色々教えて頂いております。至らない点が多々ありますが、一生懸命やらさせていただきますのでよろしくお願いします。

《ボランティア募集!!》

やまびこ工房ではボランティアの方を募集しています！私たちは、たくさんの人との交流の中で、自閉症理解の輪を広げていくと共に友人、仲間といった、人と人とのネットワークを広げていきたいと考えています。自閉症ってなんだろう？何かやってみたいetc.なんでも構いません。思い立ったが吉日！興味をもった方はまず、お電話を！！

.....
 ● 活動内容: 散歩やプールなどの外出の付き添い
 作業準備・補助(紙すき、空き缶つぶし、ウエス作製 etc.)
 畑や植栽の手入れ、施設の環境整備(窓拭き etc.)
 刺繍製品の仕上げ(縫い物)
 ● 活動時間: 月曜～金曜の9:00～16:00 1日でも1時間でも大歓迎です。
 製品作成はご自宅で行って頂いてもかまいません。

お問合せ先: 042-760-1033 やまびこ工房 担当: 稲垣・粕谷までご連絡ください。

後援会のページ

この度、中塚さんの後任として風の谷後援会の会長となりました鈴木と申します。皆様のご支援を得て会長職を務めてゆきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

皆様もご承知のとおり、風の谷後援会の目的は「社会福祉法人風の谷」の行う各種事業に対する後方からの支援です。具体的には、一般会員・法人会員の募集、地域交流バザー、ほかほかふれあいフェスタへの参加等による自閉症および風の谷の活動に関する啓発活動であり、ブルーベリーの実やジャムの販売、新聞紙、段ボール、空き缶の資源回収による資金援助です。また、これらの活動も風の谷の職員の皆様および家族会の皆様のご協力によって実現されています。

風の谷を支援することは、最終的には「やまびこ工房」に通う子供たちの支援につながることになります。今後とも、風の谷後援会の諸活動に対する一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

風の谷後援会会長 鈴木秀美

【更新・個人】平成19年1月29日～6月5日（敬称略）

（相模原市内）

石崎守、山口彰一、津田英隆、津田典子、辺見祐二、萩原春夫、萩原莉恵子、篠崎繁雄、西田明美、高林清、政野光廣、井上進、豊田幸男、大久保敬二、高橋ユキ江、山崎テル代、谷口博恵、小川英治、小松克明、高田えり子、黒田アキ、岩崎和夫、川合義正、鈴木フミ、永山明彦、小原政美、芳賀道子、小針徳枝

（その他地域）

北村恵子（逗子市） 酒井艶子（川崎市） 竹花三枝（町田市） 上城洋一（座間市） 水田敏弘（高座郡寒川町） 政野大（茅ヶ崎市） 下田浄（所沢市） 大久保秀俊（秦野市） 安藤紀子（横浜市）

【更新・団体】

相模原市やまびこ会

【ご寄付・ご協力】

依知の会、三菱重工労働組合、ドウ シルフィード（亀井美佐子・小室かおり・鶴田純代・森美紀）、（有）伸和トラスト、新宿自治会、新宿小学校、ワーカーズコープ・キュービック、ボランティアサークルきずな（田尻・徳永・井上・相沢）、相模原市ボランティア協会（百元・吉田・佐藤・加藤）、宮田加奈子、岩崎陽子、森谷俊子、木下英夫、浜名勝治、西川清、佐藤辰男、柳場秀雄、他大勢のみなさま

ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名7236-3 社会福祉法人 風の谷 内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345